

色とりどりの72品種、 120本のツルバラを公開

5月12日、13日、19日、20日の4日間、(株)のじりアグリサービスでローズガーデンアグリ〜つるばらまつり〜が開催されました。まつりでは、景観向上と堆肥の効果検証を目的に栽培されているツルバラなどを公開。園田正明代表取締役は「環境保全と堆肥のPRにつながれば」と話していました。



4日間で5,000人が来場。会場では、センターが製造する堆肥「うぐいす有機」で育てた野菜や花などの販売も行われました。

見ることができた人は幸運？ 雲の切れ間から金環日食

太陽に月が重なり、指輪のような形に見える「金環日食」が5月21日、日本各地で観測されました。北きりしまコスモドームでも観測会を開催しましたが、あいにくの曇り空に日食観測はかなわず。一方、市内の各所では、雲の切れ間から貴重な日食の姿が観測されました。



北きりしまコスモドームで日食を待ちわびる来場者
右上は金環日食（提供/犬畑美和さん・野尻町東麓の自宅で撮影）



野尻中3年の東原ひらり部長は「難しいことをやさしい言葉で指導してくれた。とても役に立つ練習だった」と感激していました

打楽器奏者の目黒一則さんが 野尻中吹奏楽部を指導

5月8日、野尻中吹奏楽部に打楽器奏者で昭和音楽大学・大学院、国立音楽大学講師の目黒一則さんが訪れ、指導しました。目黒さんは、宮崎国際音楽祭に出演するために来県。生徒はこの貴重な時間を逃すまいと真剣な表情でリズムの取り方や音の細かな変化などを学びました。



誓いを述べる山下教頭。岩下教育委員長は「各学校の中核を担う教諭ばかり。今年も充実した研究に期待したい」と激励しました。

学力向上につながる研究を 教諭20人に委嘱状を交付

5月10日、小林中央公民館で市教育研究センター研究員の委嘱状交付式がありました。岩下武史教育委員長が、小中学校の教諭から選ばれた20人一人一人に委嘱状を交付。研究員を代表し、野尻小学校の山下健一教頭が「全力を傾注し、学力向上に向けて研究を進めたい」と誓いを述べました。

鯉のぼり玉入れに大きな歓声 すきむらんどで滝まつり

5月4日、すきむらんどで滝まつりが開催されました。山菜天ぶらの振る舞いのほか、ステージでは1キョちょうどを目指して、特産の“すききゅうり”を袋につめるイベントを開催。10チームが参加した鯉のぼり玉入れ大会では、手に汗握る熱戦が展開され、会場には笑いと大きな歓声が響いていました。



大きく口を開けた鯉のぼりに参加者は夢中で玉を放りますが、なかなか難しい様子でした



人気の草花とハーブ寄せ植え教室。今回は、香油作りやハンドケア実習など、ハーブを暮らしに取り入れる講座なども開かれました

暮らしに香りと彩りを ハーブ祭り in のじり開催

4月22日、薬草・地域作物センターでハーブ祭り in のじりが開催されました。市内外から約1,500人が参加し、寄せ植え教室やクイズラリー、○×クイズなどを通して、ハーブの効能や活用方法などを学習。濱田安典所長は「ハーブや薬草を心と体の健康に役立ててほしい」と話していました。

小林市小・中学校「読みきかせ」連絡協議会が文部科学大臣表彰を受賞

4月23日、小林市小・中学校「読みきかせ」連絡協議会が、子どもの読書活動優秀実践団体に対する文部科学大臣表彰を受賞しました。同協議会は、各小中学校で活動していた読み聞かせ団体の情報交換と課題解決、また、団体の立ち上げの手助けになればと平成18年に発足。以来、会員の技術向上、本の選び方などの研修を定期的で開催して人材育成に努め、小中学校での読み聞かせを中心として活動を行ってきました。受賞に際して坂下実千代会長は「これからも活動を続けることで、子どもが本に親しみを感じ、次の世代に読み聞かせをしてもらえれば」と話していました。

また、同協議会は4月27日、小林市立図書館で「本はともだち 春のおはなし会」を開催しました。4回目となった今回は、詩の朗読や絵本クイズ、人形劇などを実施。生の声で読み聞かせを行い、子どもたちと触れ合うなどし、会場は和やかで温かい雰囲気に包まれていました。



▲小林市小・中学校「読みきかせ」連絡協議会の役員の方々と
▼4月27日に行われた「本はともだち 春のおはなし会」の様子

